



校
訓

理想は高く
心清らかに

教 育
目 標

未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい
生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～



私の父母は生前、朝な夕な仏壇にお参りをしておりました。私が子どもの頃からその姿を見ているので、若い頃からしていたようです。仏教であろうとキリスト教であろうと、人が頭（こうべ）を垂れて、一心不乱に何かを祈る姿には心打たれるものがありますね。

「いつも何ば祈りよっと？」と、父に聞いたことがあります。「朝は、家族の健康と安全のお願い、夕方は、今日一日、みんなが無事であったことへの感謝と御礼の言葉ば述べよっとたい。」という返事でした。

その日一日、健康で無事に過ごせたのは自分の力だけではなく、人知の及ばない大いなる力によってご加護を頂いたおかげであるという思い。このような思いを持つことは、私はとても大切なことではないかと思っています。

私は、給食を食べたあと、昼休みにウォーキングをする時があります。一中の西門を出ると、すぐ大きな道に出ます。道向こうの安民堂と市営住宅の間に小さな道があるのはご存じでしょう。そこを50ほど歩いていくと右に入り込む道がありますので、右折して、しばらく行くと急勾配のちょっとした山道になるんです。ここで負荷がかかって体力作りにはいいんですが、結構「ハアー、ハアー」息切れがしましてね、退職前の老骨の身にはこたえます。上り切ると、上は畑で行き止まりになっていますので、そこでUターンして帰ってくるんです。

仏壇でのお参りとウォーキングにどんな関係があるかといいますと、何の関係もないんですが、実は、急勾配の山道を上り詰めたところにかわいらしい小さな神社があるんですよ。そこで、必ずお参りをしてから帰ってくるんです。神社の名前を記した標柱があるんですけど、消えかかっているように見えません。「・・・山神・・・」という文字はかすかに見えるんですけどね・・・。「山神神社」というのかもしれない。

神社の前でしばしたたずみ、生前の父母に倣って、「一中生が、今日も一日健康で元気に学校生活を送ることができますように。中体連大会が近づいてきました。今年も昨年同様頑張って、一中生の輝きを見せてくれますように。」と祈りを捧げて帰ってくるんです。祈りが通じますように！！